

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870301074		
法人名	社会福祉法人 欣水会		
事業所名	グループホーム だんらん		
所在地	茨城県土浦市穴塚1957番地		
自己評価作成日	2022年8月29日	評価結果市町村受理日	2022年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0870301074-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2022年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染の影響で外出を自粛している。年間行事計画を作成時、室内でできる行事を多く取り入れている。外食は自粛で宅配で寿司をとったり、ミニ模擬店に変更するなどした。季節毎にスイカ割り、運動会、忘年会など毎月四季を感じることでできる行事を計画、利用者と職員が共に楽しめる機会を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関を入ると正面に法人理念、事務所内には法人スローガンを掲示、管理者・職員は把握し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、法人全体での行事もなくなり、入所以前から老人会などで顔見知りの方と会う機会もない。現在は隣接する協力病院が、入所前からのかかりつけ医院の方もいることから、先生や看護師都会見知りの方もいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	直接電話で相談を受けることがある。コロナ禍前は、ホームに來られ相談を受けることもあった。経験豊富な職員が対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議の開催を見送り、書面で対応しているため直接意見交換をすることができない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へは毎月初めに入居、退居連絡票を提出している。運営推進会議の開催は見送り書面で対応している。事故報告については報告書提出時に指示を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で毎年講師を招き、研修を実施している。開設時から、玄関は施錠せず職員全員が出て行く利用者に対し、理由を聞いた上で、行動を止めないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で行う研修を通して、認識の共通に努めている。また、虐待について自己点検シートにチェックを入れることで振り返り虐待防止の意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年法人全体で講師を招き、研修を行っている。研修後は復命書を提出している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前施設にて重要事項の説明及び契約書の内容説明を行っている。契約書は自宅に持ち帰り、家族間で話し合い納得した上で利用開始日に署名・捺印をして頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には常に声かけやアンケート調査をして要望を引き出す努力をしている。家族には面会時や電話の際、意見や要望を伺うよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在は新型コロナウイルス感染予防のため随時開催している。職員が常に率直な意見を言える環境を作り、申し送りノートを活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、自己アピールをすることができる。自己研鑽の啓発や賞与に反映されており、レベルアップに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染拡大以前は、法人内外の研修に多く参加していた。現在は、オンライン研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大以降は、交流の機会がなくなり、施設見学・介護相談員派遣事業などの受け入れを中止している。サービスの質を向上させるため毎年、オンライン研修が組まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍前は、入所申し込み後施設見学をご本人様にして頂き、職員や利用者と気軽に話せる機会を作り、会話の中から趣味や要望、生活歴を伺いケアプランに反映してきた。現在は、入所後会話の中から趣味や要望を聞き取りケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、重要事項の説明時に家族の疑問や希望・要望を聞いている。入所後の面会時(現在は、ガラス越し面会)家族に現在の生活状況を報告、その際意見や要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望があった場合は、可能であればご本人も施設見学をして頂き、必要性の検討をしていた。現在は、新型コロナウイルス感染予防のため施設見学を中止している。家族や利用しているサービス事業所から情報を頂くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していく上で、洗濯物を干したり、畳んで頂いている。クッションにカバーやひもを縫って付けて頂いたり、マフラーを編んで頂くなど個々の出来ることをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えるために、家族との信頼関係の構築に努めている。現在、面会はガラス越しで面会中職員は距離を置き見守り、面会后近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の許可を得たうえで友人、兄弟、姉妹の方と電話、手紙のやり取りをしている。施設に電話をかけてくる方には取り次ぎをしている。直接携帯電話にかけてくる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人とソファやテーブル席が隣になるよう配慮している。困っている利用者がいると職員を呼んで下さる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に何かあれば連絡を頂けるよう伝え、対応している。隣接する施設に入所された際には面会に行く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を訴える方は少ないが、日常生活の中で確認している。年1回のアンケート調査を行い、コミュニケーションを図りながら、一人ひとりの意向を把握し、コミュニケーションが困難な方は、家族の意向を配慮し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、家族や担当ケアマネージャーから、生活歴やその他の情報収集に努めている。入所後も家族から新たな情報を得て、随時情報を追加している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートやバイタルチェック表、ケース記録の活用で現状の把握に努めている。1日の過ごし方は、24時間シートの活用で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年に1回サービス担当者会議を開催、本人・家族・施設担当者間で話し合い、意見交換をすることで本人にとって最適な介護計画を作成していたが、現在は、新型コロナウイルス感染予防のため電話で家族と作成担当でサービス担当者会議を開催している。後日捺印を頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践状況、日々の様子を記録し、要観察者に対しては個別に記録を残す。会議開催が難しい中、申し送りノートを活用して職員間でケアの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行やその時に最も適したサービスを法人全体で連携を取りながら、提供できるような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のためボランティアの受け入れは行っていないが、以前は納涼夏祭り・敬老式典等の行事には地域ボランティアの方の協力を得ている。月1回、尺八やロボットセラピーでは学生との交流の場となっていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前、重要事項説明時に本人、家族の意向を伺いかかりつけ医師を継続するか協力医へ変更するか決めている。殆どの方が協力医院をかかりつけ医としている。月2回の往診がスムーズに受けられるよう、常に情報を共有し緊急時には迅速に対応できるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やバイタルに変化が見られた際は、すぐに報告、相談して対応している。夜間も変化が見られた際は、随時連絡して適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は協力医からは診療情報提供書、施設からは介護サマリーを作成し情報提出している。担当看護師と情報交換をすることで入院中の状況を把握し、退院後の受け入れをスムーズに行えるようにしている。コロナ感染拡大以前は、退院前に病院を訪問、実際に現状の把握と担当看護師から情報の提供を受けていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族の意向を確認し、グループホームで出来る対応を明確にし、家族の意向を確認しながらケアの方向性を考え、終末期のケアについても、家族に十分な説明をして同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な想定した対応マニュアルを作成、周知徹底を図っている。現在は、新型コロナウイルス感染予防のため救命救急講習は中止している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回防災・避難訓練を行っている。法人全体でも協力体制ができています。避難場所として近隣の福祉学校とも協力体制がとれている。夜間を想定した防災・避難訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格を理解し、一人ひとりの人格を尊重したその人に合わせた支援をしている。特に、トイレ誘導や入浴介助の際は、プライバシーに配慮した声かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1年毎に自己決定が難しくなった。質問方法を閉ざされた質問、開かれた質問と使い分けて要望の表出に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活を送っていただきながらも、食事内容や入浴、レクリエーション等可能な限り本人の希望に添えるようにしている。食事のペース、衣類着脱のペース等一人ひとりに合わせて、その人らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、移動美容室の訪問があり、本人の意向や好みをよく聞き、その人らしさを大切にしている。また、日々の身だしなみにも注意を払い、入浴準備や朝の着替えの際は、一緒に服を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや食べたい物を聞き、職員が1週間交代で献立を作成する。新型コロナウイルス感染予防のため外食の機会がなくなり、弁当や寿司等の宅配で食事会をしている。食事前のテーブル拭きや下膳・お盆拭き等出来ることを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回体重測定を実施、体重の増減に応じて、協力医、管理栄養士と相談しながら調整、また体調に応じた食事形態の変更、食事量が多く望めない方には家族、管理栄養士と相談して栄養補助食品を提出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、痛みや異変(残渣物の量)を観察、週2回の歯科往診時に報告、往診時以外でも連絡を密に取り義歯調整や歯茎の腫れ等を迅速に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、利用者個々の排泄パターンを把握し、定時誘導・随時声かけを行うことで、トイレでの排泄を支援している。夜間も可能な限りトイレでの排泄を支援している。体調不良時を除きオムツを使用していない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時、ヨーグルトにオリゴ糖をかけて提供、10時の水分補給時に牛乳を提供することで便秘予防に努めている。医師と相談して服薬コントロールを行い、本人の負担を軽減している。リハビリ体操や屋内散歩等、個々の状況に合わせて日課として軽運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が基本で、状況によりシャワー浴を行っている。同性介助を希望される方は、同性職員が介助にあたり、入浴順番など本人の希望を尊重している。入浴のない日は清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドは入所前から慣れ親しんだ物で休んで頂き、一人ひとりの生活リズムを把握した上で、希望に副った休息の支援を行い室内の温度調整等、まめにチェックし、気持ちよく休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットごとに薬説明書ファイリングし、職員全員が薬を理解できるようにしている。服薬までには3度の確認、服薬時には日付、名前、飲み込みを確認を徹底し、誤薬防止に努めている。薬が変更した場合は体調の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、簡単な寝具交換枕カバー交換など役割を持って、張りのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス感染予防のため、少人数での車窓からのお花見ドライブ等のドライブを年2回、日常的に外気浴や日向ぼっこを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、ショッピングモールや遠足で買い物をする機会がなくなり、お金を所持している方もいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りは自由にしている。希望があれば電話の取り次ぎは職員が手伝いをしている。個々に届く手紙や荷物などは本人に渡している。携帯電話の持ち込みも自由である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには民芸家具が飾られている。各ユニットには3人掛けソファが置かれ、ユニットにより特徴のある配置になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットにはソファが置かれ、気の合った利用者同士がテレビを観たり会話を楽しんでいる。居室でクロスワードパズルをして過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の説明の際に、自宅で使っていた馴染みのある椅子やタンス、家族の写真を壁に飾り居心地よく暮らせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー、手すり設置等安全に移動できるよう配慮している。居室内は利用者一人ひとりの身体状況合わせ、ベッド柵の設置、居室の入り口には手作りの表札がある。		